

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

検体検査実施料新規収載のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、平成 19 年 7 月 31 日付け「保医発第 0731001 号」厚生労働省保険局医療課長通知にて、別項の項目につき検体検査実施料が平成 19 年 8 月 1 日より新規適用されることになりましたので、取り急ぎご案内申し上げます。

宜しくお取り計らいの程お願い申し上げます。

敬具

「検査実施料」の新規収載

点数 区分	検査項目名	検査方法	実施料	判断区分 判断料	備考	注
----------	-------	------	-----	-------------	----	---

D008 内分泌学的検査

16	低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)精密測定	電気化学発光免疫測定法(ECLIA法)	170	生化Ⅱ 135	検討中	*1
----	----------------------------	---------------------	-----	------------	-----	----

D014 自己抗体検査

	抗GM1 IgG抗体	ELISA法	460	免疫 144	検討中	*2
	抗GQ1b IgG抗体	ELISA法	460	免疫 144	検討中	*3

[注]

- *1：ア 低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)精密測定は、区分「D008」内分泌学的検査の「16」のオステオカルシン精密測定に準じて算定できる。
イ 低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)精密測定は、骨粗鬆症におけるビタミンK₂剤の治療選択目的で行なった場合又は治療経過観察を行なった場合に算定できる。ただし、治療開始前においては1回、その後は6月以内に1回に限り算定できる。
- *2：ア 抗GM1 IgG抗体は、区分「D014」自己抗体検査に準じ、区分「D026」検体検査判断料の「5」の免疫学的検査判断料を算定する。
ただし、検査料については、区分「D009」腫瘍マーカーの「16」のインターロイキン2受容体(IL-2R)精密測定に準じて算定できる。
イ 抗GM1 IgG抗体は、ELISA法により、進行性筋力低下又は深部腱反射低下等のギラン・バレー症候群が疑われる所見が見られる場合において、診断時に1回に限り算定でき、経過観察時は算定できない。
- *3：ア 抗GQ1b IgG抗体は、区分「D014」自己抗体検査に準じ、区分「D026」検体検査判断料の「5」の免疫学的検査判断料を算定する。
ただし、検査料については、区分「D009」腫瘍マーカーの「16」のインターロイキン2受容体(IL-2R)精密測定に準じて算定できる。
イ 抗GQ1b IgG抗体は、ELISA法により、眼筋麻痺又は小脳性運動失調等のフィッシャー症候群が疑われる場合において、診断時に1回に限り算定でき、経過観察時は算定できない。